

# 第1編 簿記の基礎

## ～ 第1回 ～

### 第1章 企業の簿記

#### 簿記という用語

「簿記」は、明治6(1873)年6月に福沢諭吉がブライアントとストラットンという商業学校の先生が著述した「Bryant & Stratton's Common School Book-Keeping, 1871」を翻訳した簿記書によって、日本で始めて紹介されました。

「簿記という用語」は、帳簿記録または帳簿記入の略語であるとか、“Book-keeping”の発音が訛ったものであるとか、明治6年(1873年)文部省から出版された『仏国学制』の中で、“Tenue des Livres(仏語)”を“記簿法”と翻訳され、“記簿”という漢文が“簿記”という日本読みが変わったとか、様々言われています。

当時スコットランド人のアレキサンダー・アランシャンドが大蔵省に招かれ、簿記の指導をしながら、書記官が翻訳・校正し、「銀行簿記精法」が明治6(1873)年10月に完成しました。簿記という用語は、明治4(1871)年に大蔵省の職制および事務章程の中に使用されたのが始まりで、それ以後、常用語となり「銀行簿記精法」などで使用されて普及していったと言われています。

#### 簿記3級 第1回

#### 簿記の基本

- 簿記という用語
- 記帳の必要性
  - 【掛け仕入れと債務】
  - 【掛け売りと債権】
  - 【有高(ありだか)】

## 1. 記帳の必要性

企業には、商品販売業・製造業・金融業・運送業などさまざまな業種があります。このうち、たとえば、商品販売業では、商品の仕入れや商品売り渡しなどの経営活動を続けていくために、店舗を設けたり、商品陳列用のケースを購入したり、給料や電気料金などの諸経費を支払ったりすることが必要になります。

そのためには、ある程度の現金を持っていなければなりません。

### 【掛け仕入れと債務】

もし現金が不足したときには、金融機関から借り入れしたり、仕入先から商品の代金を後日支払うことにして、仕入れ（掛け仕入れ）たりすることもあります。この場合、将来、金融機関や仕入先に現金を支払う義務（債務）が生じます。

### 【掛け売りと債権】

いっぽう、現金にゆとりがあるときには、金融機関に預け入れたり、得意先に商品の代金を後日受け取ることにして売り渡したり、得意先に商品の代金を後日受け取ることにして売り渡し（掛け売り）たりすることもある。この場合、将来、金融機関や得先から現金を受け取る権利（債権）が生じる。

### 【有高（ありだか）】

企業が持っている現金や商品などの財貨、企業の債権や債務などは、日々の経営活動にもなって絶えず変動する。そこで、これらの変動と有高（ありだか）を正確に把握するためには、帳簿への記録、すなわち記帳が必要となる。

- 簿記の意味と目的。
  - 継続的に帳簿に記入することによって、日常の**財産管理**に役立てる。
  - 企業の**経営成績**を明らかにする。
  - 企業の**財政状態**を明らかにする。

## 2. 簿記の意味と目的

企業の経営活動に伴って生じる現金や商品などの財貨、債権や債務などの変動と有高を、金額であらわして帳簿に記録・計算・整理をし、その結果を明らかにする計算方法を**簿記**という。

簿記の目的は次の三つに要約することができる。

### 継続的に帳簿に記入することによって、日常の財産管理に役立てる。

記帳によって、いつでも企業が持っている現金・商品および債権や債務などの有高を知ることができる。したがって、紛失したり、盗難にあたりしてもその金額がすぐわかり、また、債権の回収漏れや、債務の二重払いなどの誤りも防ぐことができる。

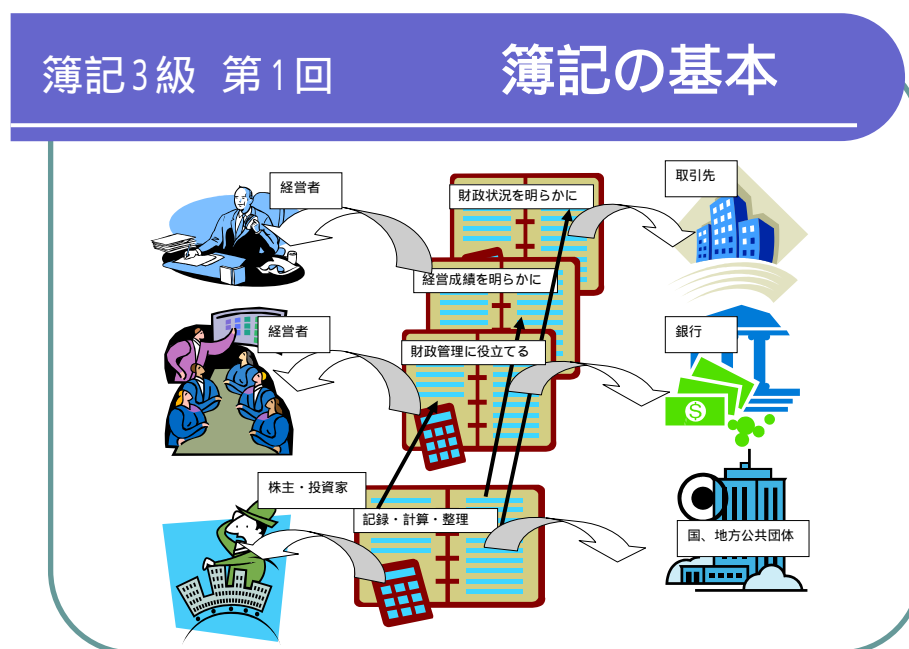
### 企業の経営成績を明らかにする。

すなわち、企業の一定の期間における仕入れ・売り上げなどの経営活動の結果、どれだけの利益をあげたかあるいは損失があったかを明らかにする。

### 企業の財政状態を明らかにする。

すなわち、企業の一定の時点における現金・商品・債権・債務などの有高を明らかにする。

簿記によって、



経営者は、日常、財産の管理をし、また、企業の経営成績や財政状態を知ることによって、これまでの経営活動のあり方を反省し、将来の経営活動の方針と計画を立てるのに役立てる。

出資者は企業の経営成績や財政状態について、過去における投資が成功したかどうか、将来も引き続き投資をすべきかどうか判断するための資料として利用する。

債権者は、金融機関などのその債権および利息の回収が確実かどうか、将来、さらに資金を貸し付けるべきかどうかを判断するための資料として利用する。

従業員は、給与や労働条件の改善を要求するための資料になる。

税金を徴収する国や地方公共団体は、課税額を決定するためにこれらの資料を利用する。(都道府県・市町村・特別区(東京23区)など。)

このように、簿記はたんに一企業にとってたいせつであるばかりでなく、  
広く社会的にも重要な役割をはたしている。

- 簿記の種類
  - (1)単式簿記と複式簿記
  - (2)商業簿記・工業簿記・銀行簿記
  - (3)営利簿記と非営利簿記

### 3. 簿記の種類

簿記には、次のような種類がある。

#### (1) 単式簿記と複式簿記

記帳法の違いによる分類で、ふつう、現金や債権・債務などの一部の変動と有高を中心に、小遣い帳や家計簿のように、日付順に記録・計算する簿記法を単式簿記という。

これに対して、現金や債権・債務などはもちろんのこと、仕入れ・売り上げなどの経営活動から生じるすべての変動とその原因を、貸借平均の原理（後述）によって記録・

計算する簿記法を複式簿記という。複式簿記は、企業の経営成績と財政状態を同時に

明らかにすることができるので、広く一般に用いられている。こんにち、たんに簿記とい

えば、ふつう、複式簿記のことをいう。